

長期戦略:テーマ 「内部進学者の増加」

提出日 2019年 8月 28日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	柳屋常任理事(法人) (法人部)	実施計画の 担当部署	千里(SIS)、高大接続センター
-----------------------	---------------------	---------------	------------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
4-(3)-② 千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持(50%以上)	(2019)年度	(2021)年度	必要なし	不要
内容				
<p>合併以来、大学への内部進学率は向上し、2018 年度入試で初めて 50%を超えた。進路の方向性を自分で「選ぶ」ことを根幹にした進路指導体制で進学率が増加した背景には、1)SGH の取り組みその他により、高校在学中に、大学での学びへの理解と憧れを具体的に確かなものにする生徒が増えたこと、2)大学の協力により各学部の説明や授業体験の機会が増えたこと、が挙げられる。今後もこの2点を強化することで進学率維持を目指す。</p> <p>加えて検討すべきこととして、現状では本大学に進学しているのは、主に SIS 生徒の中間層ということになるが、</p> <p>A) 上位層の進学率を高めるためには大学の受け入れ態勢を整えてもらえるように協議する必要がある。</p> <p>B) 推薦入学者の学力レベルを維持し、千里国際高等部からの入学者を増やすため、現状で推薦されない層の生徒に対する指導を強化し、「学びに向かう力」の評価などを含めた校内選考基準の多様化などの見直しを検討する。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	大学を理解するガイダンス回数	SGH 指定 2019 年度での終了後、この間に築いた大学との連携の体制を維持・向上。大学教授による講演会等の回数 高校1・2年生時に大学・各学部や入学後の留学、2019 年度から始まる国際教職プログラムを理解するためのガイダンス開催回数		
指標2	成績上位者の対応学部数	英語上級者・英語以外の外国語中/上級者の受け入れ対策の対応学部数 留学制度の予約制などを取り入れる対応学部数		
指標3	校内選考基準の見直し	校内選考基準の見直しの有無		

目標1<指標1> 大学を理解するガイダンス回数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	前年度と同様のガイダンス実施に加え、神戸三田キャンパスでの参加生徒数を増やす	西宮上ヶ原・神戸三田キャンパス共に、ガイダンス回数を増やす 5名程度の大学教員に講演等で千里国際キャンパスに来てもらう	8名程度の大学教員に講演等で千里国際キャンパスに来てもらう	10名程度の大学教員に講演等で千里国際キャンパスに来てもらう
実績				

目標2<指標2> 成績上位者の対応学部数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	言語教育研究センターとの協議 (英語・その他の言語への対応学部数増)	国際連携機構との協議 (留学の予約制度など対応学部数増)	国際学部とSOISとの協議 (英語だけで学ぶ学部体制を共同で確立)	理工学部とSOISとの協議 (OIS卒業生を受け入れる理系体制)
実績				

目標3<指標3> 学内選考基準の見直し

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	推薦基準検討WG	新基準確定	継続	指導強化と3年ごとの基準確認・見直し
実績				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大学を理解するガイダンス回数	策定段階	前年度と同様のガイダンス回数を維持＋KSCのイベント参加生徒数を増やす(+30人)	千里キャンパスのガイダンス数増(+1回)、KSCのイベント参加生徒数増(+40人)5名の大学教員に講演等を依頼	KSCのイベント参加生徒数を増やす(+50人)8名の大学教員に講演等を依頼	KSCのイベント参加生徒数を増やす(+60人)10名の大学教員に講演等を依頼	継続
	2020年3月末段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	継続	継続	継続	継続	—
	2020年3月末段階	—	—	—	—	—
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
成績上位者の対応学部数	策定段階	言語教育研究センターとの協議(英語・その他の言語への対応学部数増)	国際連携機構との協議(留学の予約制度など対応学部数増)	国際学部とSOISとの協議(英語だけで学ぶ学部体制を共同で確立)	理工学部とSOISとの協議(OIS卒業生を受け入れる理系体制)	言語対応・留学予約制度・国際学部の英語化・理工学部の英語化実現
	2020年3月末段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	言語対応・留学予約制度・国際学部の英語化・理工学部の英語化実現・継続	継続	継続	継続	—
	2020年3月末段階	—	—	—	—	—

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
学内選考基準の見直し	策定段階	指導強化 推薦基準検討 WG	指導強化 新基準確定	指導強化	指導強化	指導強化 推薦基準確認・見直し
	2020 年 3 月 末段階	—	—	—		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	指導強化	指導強化	指導強化 推薦基準確認・見直し	指導強化	
	2020 年 3 月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

(2019) 年度	
(2020) 年度	
(2021) 年度	

5. 今後の課題及び方向性

(2019) 年度	当初計画通り進める予定
(2020) 年度	
(2021) 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	大学を理解するガイダンスの実施を認めます。ただし、講演会・送迎バス代については、従来より SGH 補助金にて対応していることから、最終年度である 2019 年度も SGH 補助金で対応してください。
2019 年度	大学を理解するガイダンスの実施を認めます。ただし、講演会・送迎バス代については、従来より SGH 補助金にて対応していたことから、下記 4-(4)-②に組み込んでください。
(2020) 年度	
(2021) 年度	